

税制調査会（第2回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：令和2年8月5日（水）16時30分

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

中里会長

皆様には別室で御覧いただいたと思いますが、本日は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、ウェブ会議形式で第二回の税制調査会を開催しました。

会議の内容については、お聞きになられたとおりですが、始めに事務局から昨年取りまとめた中期答申の内容や現下の経済社会の構造変化について簡潔に御説明いただき、その後、各委員より実に幅広い観点から様々な御意見を頂戴することができました。

また、議事の最後には、会議の中で出された御意見を踏まえて、前の体制においても議論を行っていましたが納税環境整備に関する専門家会合を引き続き岡村委員の下で進めていただくこと、そして、その具体的な進め方やメンバーについては私の方に御一任をいただいたということです。

今後の総会等の開催スケジュールについてですが、本日の皆様の御意見も踏まえつつ、事務局とも御相談しながら検討したいと考えています。

記者

事務局からコロナ対策を受けて厳しい財政状況の説明があったかと思うのですが、一方で、野党や与党の一部からは消費税の減税などを求める声も出ていますが、会長の御所見をお伺いできますか。

中里会長

これは今日、二回目で、まだ皆様の意見をお聞きしただけのところ、なかなか感想と言われても、特に今、私がそういうことを申し上げるべき時期でもないと思いますので、その点、御容赦いただければと思います。基本的には、これは政治マターだと思しますので、そちらで真剣に国会議員の方々に一生懸命に御議論いただくことになるのではないかと考えています。

記者

会議では委員の皆様から、所得の再分配と税を併せて考えていくべきではないかと今回の新型コロナウイルス感染症の状況とかを踏まえて様々な御意見がありました。様々な喫緊の課題などもあるかと思うのですが、今後、政府税調としてはどのように優先順位をつけて進めていこうとお考えですか。

中里会長

今日は本当に様々なお考え、様々なお立場から様々な御指摘がございました。私も初めて聞いたものがほとんどですから、今すぐにといいわけにはいきそうにありません。それらをじっくりともう一度整理し直して、どういう順番でどういうようにとい

うことを考えていきたいと思っています。

ただ、納税環境整備については、いずれにせよ執行の問題がこういう御時世ですから重要になってきますから、これは納税者の便宜を考えてしっかり行っていったらいいのではないかとということで、前も専門家会合を設けておりましたので、今回もそれを続けて議論を行っていくと様々なことがスムーズにいくのではないかと考えたということです。

記者

今日の会議の中で委員の方から新型コロナウイルス感染症を受けて財政が膨らむ中で財政の悪化に対して税制の役割が重要性を増しているというような御指摘が、何人かの方からもあったと思うのですが、単刀直入に言うと、今後の増税であったりということが必要だという示唆かと思うのですが、今後、一方で、経済が弱ってきていて減税に対する期待みたいなものもある中で、中里会長は、その辺りをどのようにお考えになっていらっしゃいますか。

中里会長

常識的に考えて、今すぐに増税の議論をとというわけには、とてもそういう時期ではないような気はします。ただ、お金はかかりますから、それに対してどのように将来的に考えていったらいいかということについての理論的な検討はしていきましようということです。単純にいつからどう上げるとか下げるとかそういうことではないように思います。

ただ、中長期的な視点から様々なことを考えて議論していきましょう。新型コロナウイルス感染症のこともその要因の一つですし、高齢化のこともありますし、今日も子育ての話とか出ていましたが、そういうこともありますし、様々な問題を、先ほど私、申し上げましたが、経済社会の動きについても考えなければいけませんね。それから、国税の執行のあり方についても考えなければいけませんから、ちょっとアンテナを広めに広げるといえるのか、いろいろなところに張って様々な情報を集めて整理していくという姿勢でいきたいと思っていますので、これだけという一点豪華主義ではないと今のところと思っています。

記者

一点確認ですが、岡村委員の下で専門家会合でしたか。そちらは、いわゆる執行の部分、デジタル化をより進めていこうという趣旨でよろしいのでしょうか。

中里会長

特定の目的をどうのというのはその後の話だと思いますが、国際課税の話もありますし、国内の経済活動のあり方が変わってきていますから、それに対応する形で執行のあり方、納税者の方々の利便というのですか、それを考えて、納税者の方々にとってメリットのある形、便利になるような形で税の問題、税の執行の話を考えていけたらいいなという基本的な視点から考えていくということです。

これも世の中の動きについて、過去にも行ってきましたが、これからも一生懸命、事実関係を集めて整理して、そこからどうしたらいいか、当局にとって便利なだけでは困りますので、納税者の方にとって便利であるということが第一義的な話だと思いますから、そういうことを考えながら議論を進めていきたいと考えております。

記者

追加で確認ですが、それは何か時期的にいつまでに答申というか、そういうスケジュール感はあるのですか。

中里会長

今は、これはまだ岡村委員と話をしていないので何とも今の段階ではお答えできません。過去に続けてきたことの延長線上で考えられるとすれば、いつまでにすぐということではないので、世の中の動き、世の中は常に動いていますから、オンゴーイングな話ですから、それに合わせる形で我々もそれに対応していくということです。必要に応じてアウトプットも出すという、そういうアドホックなやり方になるのではないのでしょうか。また、委員の皆様、それから、岡村委員と御相談しながら方向性をもう少し具体的に決めていきたいと思っております。

[終了]